

# ハトムギから始まった地域おこし

— 農林水産業・地域の活力創造本部 —



平成25年6月25日(火)

氷見市農業協同組合  
代表理事組合長 川上 修

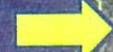


# 氷見市は能登半島付け根の東側



人口: 52,053人  
高齢化率: 31%  
農家戸数: 2,796戸  
耕作農地: 2,076ha  
耕作放棄地: 522ha  
(全体の約20%)

富山県氷見市

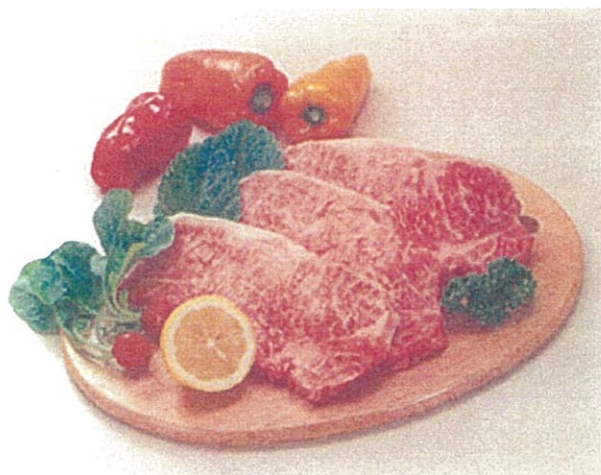


(平成22年)



# 氷見の農業関連特産物

氷見牛



氷見牛カレー



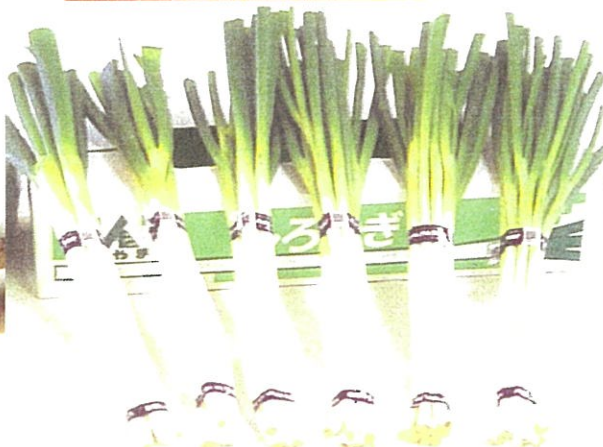
氷見米



自然薯



氷見の白ねぎ



はとむぎ茶



# JAアグリひみの概要

名号・所在地 株式会社JAアグリひみ

富山県氷見市加納840番地1

設立年月 平成18年4月

事業目的

1. 農畜産物の生産、加工、販売
2. 農作業の受委託
3. 新規就農者、後継者の育成、研修
4. 農作業用機械・施設の利用貸し付け
5. 前記に付帯する一切の業務

資本金・株式数 10,000千円、200株

(引受株数:JA氷見市198株、個人2名2株)



# 地域農業者への貢献

## 10aあたりの収支試算例 ～氷見市の場合～

(単収、単価等を下記のとおり設定した場合の収入、費用額)

製品収量 : 150kg

単 価 : ① 700円/kg

経営所得安定対策「産地資金」

②基本助成 : 20千円

③担い手加算 : 10千円

④一元集荷 : 17千円

⑤数量加算 : 60円/kg

労働時間 : 15時間 (1,000円/時間)

機械利用料、乾燥調製委託料等 :

JA氷見市の利用料に準拠

【播種機4千円+防除機(3回)3千円+中耕培土機(2回)8千円+コンバイン9千円】

【乾燥調製料 7,500円 (荷受け250kg→製品150kg、30円/荷受け1kg)】

【製品包装袋代 700円(70円/20kg袋)】

### 【収入】

161,000円

① 105,000円

② 20,000円

③ 10,000円

④ 17,000円

⑤ 9,000円

### 所得

70,743円

### 【費用】

90,257円

他諸経費 5,700円

(製品包装袋代含む)

乾燥調製料 7,500円

労働費 15,000円

JA所有機械賃借料

24,000円

資材費 38,057円

(1)経費計より

# “地消地産”で循環型発展を目指す



# 地域貢献と新しいJAの構築

## 行政との連携

きときと祭り、保育園  
創作工房ひみ など

## 地域への貢献

地元産業「観光業」等

への配慮、福祉事業 など

(保育園入園式)



(福祉事業:福世華劇団)



(ハトムギの収益金を氷見市に寄付)

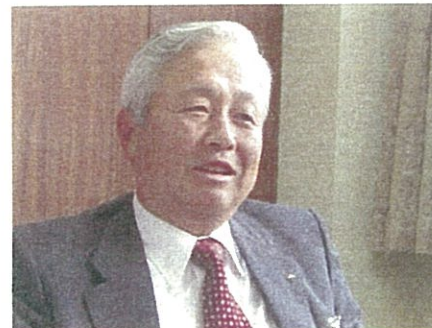
### スポーツ・観光の振興に JAアグリひみ 市へ1000万円寄付



【氷見市】10月1日、氷見市でJAアグリひみから市へ1000万円の寄付が行われた。この寄付金は、市内のスポーツ・観光の振興に活用される。JAアグリひみは、市内のスポーツ・観光の振興に貢献するため、毎年1000万円の寄付を行っている。この寄付金は、市内のスポーツ・観光の振興に活用される。JAアグリひみは、市内のスポーツ・観光の振興に貢献するため、毎年1000万円の寄付を行っている。この寄付金は、市内のスポーツ・観光の振興に活用される。

# 氷見はとむぎ物語

- ① 第一期  
昭和60年代から平成17年まで
- ② 第二期  
平成17年から平成19年まで
- ③ 第三期  
平成20年から平成23年まで
- ④ 第四期  
平成23年～



JA氷見市 川上組合長





# 氷見はとむぎの第一期

(昭和60年代から平成17年まで)

氷見市の山間部細越地区での  
ハトムギ生産と焙煎はとむぎ茶の製造・販売

## ハトムギの生産 (約1.5ha)

- ①中山間地が多い
- ②排水不良の湿田
- ③転作推奨政策
- ④細越ハトムギ生産組合は  
富山県農業振興賞や  
富山県農村文化賞等を受賞



# 氷見はとむぎの第二期

(平成17年から平成19年まで)

## 氷見はとむぎ茶(ペットボトル)の製造開始と 金沢大学ハトムギ研究者との出会い

J A 氷 見 市  
(株)JAアグリひみ

- ・農家には設備負担はさせない
- ・農作業の受託もする

### ハトムギ事業の展開



### <ペットボトル茶の製造 開始>

- ・最初は35,000本の製造
- ・販売に向けた様々な仕掛け作り
- ・生産等は子会社(JAアグリひみ)で

### <研究者との出会いなど>

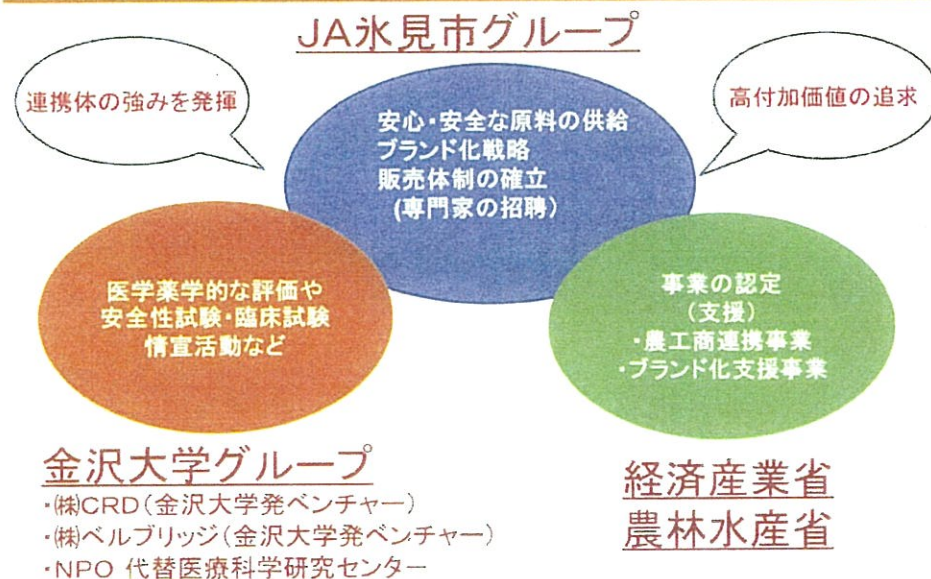
- ・お隣の金沢にハトムギ研究の第一人者
- ・美肌効果の科学的証明へ
- ・栽培指導の本格化

# 氷見はとむぎの第三期

(平成20年から平成23年まで)

金沢大学研究者との共同研究と国の支援  
そして高機能ハトムギ商品の開発  
(農商工連携事業等の事業認定)

## 産学官の連携 (ハトムギ戦略)



ハトムギCRDエキス  
特許番号:第3590042号



# 氷見はとむぎの第四期

(平成23年～)

ハトムギのメジャー化に向けた様々な試みと  
リーダーとしての地域貢献と農業振興の進化

課題

## エビデンス開発

はと麦の美肌効果の  
医学・薬学的効能の証明

機能成分特定  
作用機序解明  
容量依存性確認  
臨床試験事例

## 情報開発

はと麦の美肌機能情報を  
消費者が分かりやすい加工

はと麦関連情報調査  
コンテンツ開発  
クリエイティブ加工  
情報発信体制整備

## アウトプット開発

情報の広範な発信と  
効果的なPR対策

PRイベント  
パブリシティ対策  
体感・成功体験情報開発  
プロモーション戦略

+

- ① 農農連携（JA氷見市が全国JAの「はとむぎ茶」のOEM受託）
- ② はと麦きれい倶楽部（全国の産地が共同で認知度アップを目指す）
- ③ 異業種企業との連携（開発・製造からマーケティング・販売までの連携）





# 氷見産ハトムギを使った 主要自社商品

パックごはん



氷見はとむぎ茶

ハトムギ焙煎茶

透白美人

SARANI



年間200万本の販売  
卸価格で  
1.6億円

卸価格で  
年間0.6億円

発売1年半で  
50万本販売  
卸価格で  
0.6億円

平成24年1月  
新発売

# 氷見産ハトムギを使った主要他社商品

製造・販売は富山の  
老舗配置薬メーカーの廣貴堂

平成24年5月発売



# 氷見産ハトムギを使った主要他社商品

## 100%氷見産ハトムギ使用

サンスター株式会社(本社:大阪府高槻市、代表取締役社長 吉岡貴司)は、身体の内と外からのアプローチで女性の美しさをサポートする「EQUITANCE(エクイタンス)」より、『濃熟ETGエキス』(ハトムギ由来)配合で、体の内側から輝く透明感を導く美容飲料、「エクイタンス イノセンスクリア」を、2013年1月9日(水)より通信販売にて新発売。

## SUNSTAR



ハトムギの全粒を酵素処理した「濃熟ETGエキス」を配合  
体の内側から輝く透明感を導く

## 「エクイタンス イノセンスクリア」新発売

# 農農連携の広がり

2022年11月6日（水曜日）北 越 新 聞

## ハトムギによる農農連携

### ハトムギの

- ・農業共済新設
- ・専用肥料開発

### 平成24年販売実績

- ・JAいなば 55万本
- ・JAはくい 25万本

## 転作作物を商品化

羽咋市の産品「はとむぎ茶」の生産者（羽咋市）



JAはくいは今年11月をめどに、県内JAで初めて本格栽培に乗り出すハトムギを使った「羽咋はとむぎ茶」の生産を開始する。4月から、羽咋産ハトムギの初収穫を迎える今年秋までの間は、栽培・加工の「先遣地」で交流がある隣のJA氷見市から協力を受けて氷見産「はとむぎ茶」をいち早く扱い、事前の知名度アップに努めていく。

JAはくいでは、農家の所得向上につながる転作作物としてハトムギに着目。子会社のJAアグリはくいが羽咋市と宝達志水町の転作田2ヘクタールで栽培する。準備を進める中、販売ルート確保のためにも氷見産を借り、4月から「羽咋はとむぎ茶」として先行販売する。

最初はラベルに「羽咋」を冠しても、中身は氷見産ハトムギとなる。このため、原産地偽装とならないよう原材料が氷見市産ハトムギであることを明記し、「JA氷見市業務提携商品」とも記すことになった。

ハトムギの実は古くから漢方薬として知られ、JA氷見市の「はとむぎ茶」は健康志向の中でヒット商品となっている。JAはくいでも、農家の所得向上はもちろん耕作放棄地の解消にもつなげたいと、生産と販売の両面で力を入れていく。

JAはくいの芝田正秀組合長は「PRを先行させていく。農協も作ったものを売るだけでなく、消費を喚起していくことが必要な時代になった」と話している。

JAはくい

氷見の力借りて  
「羽咋はとむぎ茶」

## はとむぎ茶、全国各地の特産化加速（小矢部市、石川県羽咋市、九州福岡など）

- ・新たに製造する各地のリスクは極めて低い（味、在庫、収益性など）
- ・JA氷見市がハトムギの周辺整備（高機能の証明、販売実績、認知度アップなど）



# 国産ハトムギ産地のリーダーとして

## ①全国ハトムギ生産技術協議会

平成20年4月設立

## ②はと麦きれい倶楽部

平成23年8月設立

- 1、目的 国産ハトムギの利用促進と消費拡大
- 2、会員 生産者団体、加工・流通団体、関係機関
- 3、活動内容 共通ロゴ・共通商品、効果効能のPR  
セミナーの開催、facebook等による情報発信

ハトムギ  
2017年  
全国の  
産地で  
産地を  
結集し  
正式に  
国のハ  
トムギ  
産地を  
認定し



普及指  
となる。  
～16日  
産地を  
認定す  
る。加工  
カーにも



この日  
誌もPR  
として  
発行

県内ではお年寄りJA氷見市管内で93、フタール、JAUおなほで52、フタール、JAなんと3・5、フタール、JAみな穂3・4、フタールでハトムギを栽培している。

北日本新聞 Webun

役員にJA氷見市

氷の南青山会  
を指す全国  
産地を設立するこ  
とを指し全  
国産地を  
JA氷見市を



国産ハトムギの普及推進協議会の設立に向け、意見交換する出席者  
＝東京・南青山の南青山会館

産などが会員  
と毎年8月10  
を皮切りに各  
産地を展開す  
る。化粧品メ

2やまの職員ら県内の10人をはじめ全国の関係者27人が出席。意見交換では「薬能や効  
用」使いやすして「一般家庭で普及させたい」など「さまざまな声が上がった。女性もターゲ  
ットも出た。今後、3月に第2回設立準備会を開催し、会員を募集、5月中旬までの間に設立総会を

